令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

1 次 - 年 1 1 次									
事務事業名	193 働く婦人の家維持管理事業								
予算科目	01-050	0101	-11 働く好	人の家施設	と管理運営!	こ要する経	担当部課	市民部働く婦人の家	
市長公約							係名	市民部働く婦人の家	
							新規・継続	継続	
戦略プラン							事業分類	自治事務 (任意)	
							事業体制	一部委託	
個別計画							事業期間	毎年度	
								11住み続けられるまちづくりを	
	つくば	市働	く婦人の家	 关例		an a			
根拠法令等							SDGs		

事業の概要

1.71	
対象	
目的	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性とその支援者のための福祉増進を図る。
概要 (取組内容)	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性などの休養・レクリエーションの場と機会を提供する施設、並びに災害時の指定避難所としての施設の維持管理。

コストの推移

項目				令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
X I				12 112 2 1 20	111111111111111111111111111111111111111	11 11 1 2	17 177 7 7 20	11 11 1 1 2
	予算額			6, 269	14, 992	7, 484	13, 070	6, 523
事	決算額		(千円)	6, 105	9, 238	11, 462	0	0
業		一般財源	(千円)	6,072	9, 206	11, 462	0	0
費	内訳	国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
	17/	その他	(千円)	33	32	0	0	0
	人件費計		(千円)	4, 086	4, 144	4, 336	4, 144	4, 144
人		正職員従事割合	(人)	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
件費	内訳	正職員時間外勤務	(時間)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
月	一	会計年度任用職員有無	(-)	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	
企画・立案、計画	
実行	
評価、検証	

指標の推移

	指標名	施設利用者数			((人)	活動結果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
4	目標値	8, 800. 0	8, 800. 0	8, 800. 0	8,800.0	8, 800. 0	8, 800. 0
1	実 績	8, 042. 0	4, 224. 0	4, 862. 0	8, 151. 0	8, 049. 0	8, 967. 0
	指標の 概要						

	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
2	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
3	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
$ _4$	目標値	0.0	0.0	0.0	0. 0	0.0	0.0
4	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
5	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		施設全館の照明LED化を図るため電気設備工事の設計を行った。
	成果	光熱費高騰対策として行う全館の照明LED化工事の前段である電気設備改修工事設計書を作成した。
課	業務	光熱費高騰対策として館全体のLED化を進めていく過程で、設計及び工事まで最短で施工できるよう、関係各課と協議して協議して進めていく必要がある。
題	組織、予算等	特になし
ġ	女善目標	光熱費高騰対策としての館全体のLED化を進め、施設利用者や指定避難所開設時の避難者へ快適な利用空間を提供する。

評価

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
進捗状況	5	年度当初の計画を上回る進捗で事業を実施することができた。
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。

方向性

方向性	継続
理由	

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報

1 3/4 · = 1 · 1/4 / 1/4									
事務事業名	194 働く婦人の家自主企画事業								
予算科目	01-0	501	01	-11 働く婦	人の家施記	と管理運営に	こ要する経	担当部課	市民部働く婦人の家
市長公約								係名	市民部働く婦人の家
	II -2	2	1	生涯にわ	たる学びの	場の推進		新規・継続	継続
戦略プラン								事業分類	自治事務(任意)
								事業体制	職員のみ
個別計画								事業期間	毎年度
									11住み続けられるまちづくりを
	つくば市働く婦人の家条例							an a	
根拠法令等							SDGs		

事業の概要

対象	市民
目的	つくば市の女子勤労者及び勤労者家庭の女性とその支援者のための福祉増進を図る。
概要 (取組内容)	市民への生涯学習の一環として、市民ニーズに応じた講座等を企画する。

コストの推移

		45 1E45						
項目				令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
	予算額			375	375	375	375	375
事	決算	草額	(千円)	374	374	374	0	0
業		一般財源	(千円)	276	264	374	0	0
費	内訳	国庫、県支出金、地方債	(千円)	0	0	0	0	0
	II/\	その他	(千円)	98	110	0	0	0
	人件費計		(千円)	3, 160	3, 404	2, 891	2, 763	2, 763
人		正職員従事割合	(人)	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
件費	内訳	正職員時間外勤務	(時間)	178. 00	264. 00	0.00	0.00	0.00
月月	其 武	会計年度任用職員有無	(-)	有	有	有	有	有

市民参加の取組状況

共有、理解	
企画・立案、計画	
実行	
評価、検証	

指標の推移

	指標名	講座受講者数			((人)	成果指標
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
	目標値	800.0	800.0	800.0	800.0	800.0	800.0
1	実 績	607. 0	267. 0	319. 0	438. 0	548. 0	479.0
	指標の 概要	【新型コロナウイルス感染症対策】R1年度:3月の講座を中止 R2年度:募集定員を減らし R3年度:募集定員を減らして開催					て開催

	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
2	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
3	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
1	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						
	指標名				()	
		R01年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度
_	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	実 績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の 概要						

事業の成果と課題

前年度の課題への対応		・子供から高齢者まで、前世代を対象とした講座を開講した。 ・市民が受講しやすい休日の講座を多く開講した。
成果		積極的な広報活動により、館の知名度も上がり市内全域からの応募があった。
課	業務	生涯学習の一環として老若男女問わず全世代が楽しめる講座を展開しているが、講座から新規サークルに 発展するケースが少ない。
題	組織、予算等	特になし。
改善目標		積極的な広報活動を継続し、引き続き全世代が楽しめる講座を企画していく。

評価

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。	
進捗状況	4	年度当初の計画通りに事業を実施することができた。	
市の関与	5	市が直接担うべき事業である。	
優先度	3	市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、継続して実施する必要がある。	

方向性

方向性	継続
理由	生涯学習の一環として、市民一人ひとりが充実した日々を過ごせるように、老若男女問わず全世代を対象とする講座を継続して開講していく必要がある。